

中卒ニート・非行青少年のための  
「起業・創造型共同作業所」と  
「能力獲得支援私塾」の開設プロジェクト  
普及用報告書

～子ども達と向き合うために～  
この印刷物は平成23年度日本郵便の年賀寄付金の助成を受けて制作しました。

中卒ニート・非行青少年のための  
「起業・創造型共同作業所」と  
「能力獲得支援私塾」の開設プロジェクト  
普及用報告書

～子ども達と向き合うために～



特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ  
みんなが龍馬塾  
(協力:生きる力を育む研究会)



# 1

## 子ども達と向き合うために必要な学び 「子育ての樹と森」



### 1. 「子育ての樹」とは

子育ては、「自己肯定感を育くむことに尽きる」というポイントを発達障害や二次障害とからめて、わかりやすくお伝えしたいと開発した教材です。

自己肯定感を育て、自己否定につながる二次症状を回避させることを、できるだけわかりやすく説明するために「樹育て」を模して作成しました。



- ・ 子育ては「樹育て」。「枯れない折れない樹」は「太く強い根」を張る。太くて強い根があれば、葉っぱや実に多少虫がついても(多少の苦勞を味わっても)はね返せていけます。
- ・ しかし過保護に育てられた樹は(植林のような管理林など)、一見エリートに見え「社会的・経済的価値」が上がるように感じますが、案外逆境に弱いこともあるのです。
- ・ 太い音とは「自己肯定感」がしっかりしていること。自己肯定感が弱く自己否定感情が高まってくると問題行動が増え、二次症状や二次障害へと進行する危険性が増します。
- ・ 問題行動は外に向かえば非行や暴力、内へ向かえば引きこもりや自傷へとつながります。



### “中核症状”はその子が天から与えられた個性・特長

- ・ 近年、ADHD(注意欠陥多動障害)やPDD(アスペルガー障害や自閉症などの広汎性発達障害)などの発達障害と判定される子どもが多くなりました。
- ・ でも、あのエジソンやアインシュタインたちだって発達障害だったと言われていました。
- ・ 自分の子は発達障害だと苦しまず、「これは天賦の才能だ、個性だ」と受け止めてみませんか?
- ・ ただし、大人が子どもを理解できないあまり二次症状に追い込んではいけません。「叱ってしつける」という昔型の子育て、もう以前ほど効果的ではなくなっているのです。
- ・ 昔の子どもたちには、親や先生に叱られても自分を受け入れてくれる「仲間」がいました。のびのびと自分を癒せる自然に溢れた“空間”がありました。塾に行かなくてもいいので“時間”もありました。今の子ども達には、この3つの“同”が少ないのです。だから子ども達は癒されずにいることが慢性化しているのです。
- ・ 癒されていると、脳の中にはセロトニンという物質が大量に生成されますが、癒されなくなりセロトニンが少なくなると、脳の健全な発達が阻害されるようになる恐れがあるのです。
- ・ 癒されていないと「太く強い心の根」を張ることができなくなります。そして、腐りやすい根、折れやすい幹になってしまいかねないのです。根や幹に重大な危機をもたらすのが二次症状や二次障害という病の状態です。これは防がなければなりません。

こんな症状(二次症状)が見られたら「根や幹の重大な危機」を疑ってください!

- 分離不安 ● 指吸い ● 髪触り、髪や眉毛を抜く ● 袖口や襟、指などを舐める ● かばんのひもがポロポロ ● ハンカチやぬいぐるみを離せない ● 爪かみ、爪のかみきり・チェックがある(無意識、無目的、繰り返す) → 汚言、吃音、まばたき、首、手等) ● 姿勢の前傾、Gポーズ、片足が椅子の上にあがる ● 独り言(独語) ● 夜尿、頻尿、性器いじり ● 頻繁に嘘をつく ● 人の目を見ない、見られるのを嫌がる ● 表情の変化が乏しい、感情表現が乏しい ● 自信のないことはしようとしめない ● 失敗に対してとても敏感、謝けようとする ● 勝ち負けに過度にこだわり、負けるとみてくされ、くじける ● 人との接触に過度の緊張感や嫌悪感を持つ ● やたらと怖がり、用心深い ● 知らない人にもくっつきたがる、話しかけに行く ● 間違った行為をした他児を見逃さず、しつこく注意をする ● ちょっかいをやたらと出したがる ● 人を叩いたり、押ししたりして回る ● 天の邪鬼 ● 反抗的な行動、攻撃的な行動を頻繁にする ● 虫や動物を傷つけたり、花をむしったりする



### どのように対応したらいいの?

- \* まず、「安心な家庭・居場所がある」ことが第一です。これがないと太くて強い根を張れません。DVや父母の喧嘩なども子どもを不安にさせてしまいます。
- \* そしてほめることが大切です。報酬系のほめ(〇〇出来て偉いね!)ではなく、子どもの存在をそのものを認めてあげることが大事です。「ありがとう」も最高のほめ言葉です。
- \* 「どうして〇〇ができなかったの?」という減点主義的発想は子どもを追い込みがちです。万能な人間はいませんし、人間は万能を目指すべきではないのかもしれない。
- \* ほめることは、子どもだけでなく大人の脳にも有効であることが証明されつつあります。
- \* この他、見つめる、微笑む、優しい言葉をかける、スキンシップを図る、なども大事な対応法です。

## 2. 「子育ての森」とは

### ポイント その4 樹は森で育ちます

- ・ 家庭だけで子育てを完結させようと思わないことです。親がすべての場合で万能な子育て者ではありません。学校に頼りすぎてもいけません。先生も万能ではありません。
- ・ 昔の子ども達は“憧れる背中”、“真似たい背中”を持っていました。「周りにはいろんな人が居る」という環境に恵まれていたのです。対して今の子ども達は3つの“同”だけでなく、“目標にしたい背中(生き方)”にも恵まれていないのかもしれない。
- ・ 樹は森で育ちます。いろんな樹が生きている原始林や自然林、雑木林は、管理された植林より厳しい面があるように感じられますが、結局は強い樹が育ちます。



## 3. 「もう大きくなったから遅いのでは？」と諦めないで！

### ポイント その5 “育て直し”にチャレンジしましょう

- ・ 大人達(親や先生や周りの大人達)の理解不足から、心を痛めてしまう(二次症状や二次障害になってしまう)子どもは決して少なくないようです。
- ・ 不幸にも、あなたの周りにそういう子どもがいた場合(それはあなたのお子さんかもしれません) どうしたらいいのでしょうか？
- ・ 8歳くらいまでの脳は非常に柔軟性が高いのですが、それ以降柔軟性は徐々に低下していきます。だからといって諦める必要はありません。何歳になっても脳は環境に応じて変化しますし、二次症状や二次障害も解きほぐしていける可能性はあります(ただ、時期が早ければ早いほど効果も期待できるということです)。

# 2

## 『みんなが龍馬』での支援活動

貧困が子育てや教育への足枷となることは既に知られているところです。

広島は有名なヤクザ映画の舞台として有名な土地柄で、貧困・困窮家庭も多く、そうした家庭に育った青少年が自己肯定感の弱さや低学力等の原因から非行・引きこもりに陥るケースが少なくないようです。またそうした家庭の中にはDV世帯や生活保護世帯も目立ち、子どもを巻き込んだ“DVや生活保護の連鎖”状況も見受けられます。

しかしながらこうした課題に対し、自立期の青少年を育む教育機関や保護・更生機関の中には“面倒をみて非行等の状況をしのぐケアか叱り強制的なだけの指導”が散見され、基礎学力支援はまだしも「就労して自力で稼いでいくための意欲・能力獲得支援・指導」となるとなかなか十分ではないレベルの機関が多いのではないかと思います。

このような中、当NPOが主宰する『みんなが龍馬塾』では、第一線の実務家や専門家達との協働体制によって、「学習支援と就労支援の一体支援事業」を行い、その向うにある“起業”や“就職”などを勝ち取らせたいと活動を開始しました。

今後この活動は、全国的にみても特徴的・先進的な取組みのひとつに成長する可能性を持つものと考えています。

次の5p~8pで紹介・報告するのは、今年度『みんなが龍馬塾』で実施した支援活動の概要です。

### 学習支援

「労働体験・ボランティア体験」支援

「アルバイト就労」支援

“現場”を感じ、空間移動に強くなるための支援

“目標となる背中”や夢を見つける支援

この5つの支援の別に報告します。



## 2-1 学習支援

### ①実施目的及び内容

非行やニート状態にある青少年の家庭は、生活保護世帯や経済的な困窮世帯であるケースが少なくありません。中には制度に甘えて働かない親の下で「働かない、働きたくない、働きたくても働くなと言われながら育つ」子どももいます。

そしてその状態が親から子へと連鎖していくケースがあまりにも多いと感じています。

そこから脱却させるために、まずは「やる気につながる自信」をつけてあげることが重要であると考えました。そのために基礎的な学力(高校を卒業できるレベル、実際は中学校の学習内容レベルの習熟まで)の獲得を目指し、一人でも多くの青少年に高校卒業(或いは認定試験の合格等)を果たさせることを目標に毎週2回の学習会を継続開催しました。

また、こうした青少年には「社会常識不足ゆえ社会から弾き出される」というケースも多く見られます。このような面に対応するためには「読み書きそろばん」だけでなく、対人コミュニケーションや社会常識等の学習も必要であることから国語力、数学力、教科学習力に加え社会常識獲得学習も行いました。

②開催日:基礎学力養成学習会は概ね毎週2回(水曜日・木曜日)

:社会常識・社会性養成学習会は概ね毎週2回(金曜日・土曜日)



## 2-2 「労働体験・ボランティア体験」支援

### ①実施目的及び内容

2-1の学習会に続き、非行やニート状態から脱却させるためには、「働くことの習慣」や「一定時間辛抱して働ける根気」をつけてあげることが重要です。この能力が無いままにアルバイト等に就労しても長続きしないで終わるケースが少なくありません。

よって、「身体を動かして、時間をつかって働いてみる」という体験を重ねていく必要があります。

今年度は、当事業実施団体(よもぎのアトリエ)等でボランティア活動を体験させることとしました(ほぼ毎週1回:土曜日)。



## 2-3 「アルバイト就労」支援

2-1の学習会、2-2の労働体験・ボランティア体験に続き、非行やニート状態から脱却させるためには、「お金をもらうために働くことの厳しさ」や「それに耐えて働ける根気」をつけてあげることが重要です。この段階を一定期間以上継続できるようになれば、就労支援としては最低合格といえるレベルになると考えられます。

当事業実施団体(よもぎのアトリエ)の有償労働だけでなく、青少年が独自でアルバイト就職が出来るように「アルバイトの探し方」、「履歴書の書き方や面接の受け方」等をマンツーマンで支援し、「割烹の板前見習い」、「コンビニの店員」、「ファーストフードの店員」、「飲食店店員」、「ビル清掃員」などに継続的に就労できる子ども達や、長期休暇期間中の「引越業アルバイト」、「土木作業員」などを体験する子ども達も出現しました。また成人したニート青年の中には「ホストクラブのホスト」にチャレンジする者もいました。



## 2-4 “現場”を感じ、空間移動に強くなるための支援

非行やニート状態にある青少年の特徴のひとつは“世間が狭い”、“他都市へ出て行く勇気がない”ところです。

かつて日本の競馬馬と欧米の競馬馬の違い、メジャーリーグと日本プロ野球選手の違いは“空間移動に対する強さ・弱さの差”だと言われましたが、『みんなが福馬塾』の子ども達には、家庭環境等の事情から旅や移動慣れていなくて、他都市へ出て行く勇気がない青少年が少なくありません。

そこで“青春18きっぷ”などの格安手段で、お金をかけずに時間と体力をかけて旅と体験に連れ出すという訓練を実施しました。

行き先は「東北被災地」、「富士登山体験」、「発達障害児のグループとの共同合宿（静岡）」、「全国からの若者達が集まる伊勢のドミトリー体験」などです。

東北には片道2日間もかけて移動しました。その結果“自分でJR時刻表を読んで一人で移動できる”子どもも現れました（今の時代は大学生でできない人がかなりいます）。



富士登山には7人の子も達が挑戦し、うち3人が頂上まで辿り着きました。



静岡では発達障害を持つ子ども達と合宿、伊勢では日本中からの若者達と交流しました。



## 2-5 “目標となる背中”や夢を見つける支援

青少年や若者だけでなく、「人が変わる」ためには「感動や夢を得られるきっかけ」が必要です。子ども達に少しでも夢を感じてもらおうと、次のようなチャレンジを重ねました。

アロマセラピストになるための講習会(2回開催)



保健師・看護師・助産師になるための講習会  
(性教育研修会を兼ねる)



卓球だけでは自信のある若者を全日本実業団クラスの女子選手に挑戦させる支援



元ヤンキーで現在は実業家という  
広島の伝説的な人物「不摩信氏」に  
学ぶ研修会



神職に就きたい若者のために、古事記を教え、  
出雲や伊勢を体験させる支援



他にも、著名な福祉人や大学教員を招聘しての研修を開催しました。

- 鑑別所経験を有しながら今では日本を代表する障害者福祉人となった人物の講習会
- 日本屈指のレベルの特養を運営している方から学ぶ高齢者福祉の勉強会
- 飲食業会に入りたい若者のために“一流の障害者レストラン”を体験させる支援

## 子ども達への支援の事例



## 【事例1人目:K君 17歳】

1年前のK君は次のような状況でした。

- ・ K君は母親や姉、兄と暮らしています。中学を出て通信制高校に在籍していますが、どうやらそれは母親に経済的負担をかけたくないという気持ちからのようです。
- ・ K君は学習力が低かったわけではなく、中学生の頃不良達とつきあうようになってから勉強しなくなって成績がおちたそうです。
- ・ 16歳にして飲食店で働いています。毎月母親に食費として手取りからいくらを渡しています。携帯電話の料金も自分で払っています。毎日の労働は8時間ですが、それに耐えられるだけの根気や集中力を持っています。
- ・ 大人に対して「必要なことは説明して説得する、プレゼンする」能力を有しています。
- ・ いわゆる「ジャニ系」としてもてる部類の男の子です。なので、あちらこちらで、いわゆるナンパをします。それが災いしてか、14歳の女の子を妊娠させてしまったのですが(二人は墮胎はせずに産むことを決意しましたが)、K君は「こういうときのために、僕は働いて百万円くらいは貯金している」と胸を張りまず(多少虚勢を感じさせるところもありますが)。
- ・ K君の父親は、母親との離婚後も転々と女性関係を続けていますが、そのことに対してK君は尊敬はしないまでも毛嫌いなようなそぶりは見せません。たまには父親とも会っているようです。「街の中で、女の子をナンパしたら、僕の腹遣いの妹だった。危ない危ない」というように、明るく笑い飛ばしています。

※ 親は離婚はして経済的に特段恵まれているわけでもないと思われます。しかし、母親はK君を幼少時からしっかりと抱き、愛して育てたことがよくわかります。またK君もお母さんに対して強い愛情と信頼感を持っています。

K君にはしっかりと自己肯定感が根付き(Y座標が上部にくる)、自分に自信もあるので、行動が外向的・外向き(X軸が右にくる)となっているようです。

■K君の座標図



## 【今年1年間のK君(そしてK君への支援)】

K君は5月に17歳になり、そして8月、女児の父親になりました。

赤ちゃんが生まれるまで、そして生まれてからも「僕は稼がんといいんのです。子どもを養っていかんといいんのです。」と、昼間はお好み焼屋でお好み焼を焼き、夜はコンビニの深夜バイトをするという獅子奮迅の働きをしていました。

世の中、育児放棄をする親まで居る中で、この中卒不良は父親の役割を果たそうと頑張っていた。この社会のいわゆる公序良俗という常識(?)からみるならば、この子のように17歳で父親になることは褒められないのかもしれませんが、この子の場合には、「いけないことをしたね」という言葉は出て来ない、むしろ「君はたいしたもんだよ。お父さん、頑張れよ!」という声をかけました。

法律や常識とは一体何でしょう?

本来は“おおぜいの人々が暮らす社会の中で、他人を傷つけないように、或いは他人に傷つけられないように、最低限守り合うべきルール”であるべきでしょう。そしてこの子の場合には誰を傷つけたのでしょうか? 20歳になってセックスをして、いわゆる“合法に”赤ちゃんができたとしても、育児放棄どころか子どもを殺してしまう親だっているのが現代日本です。その中で、世間からは不良視されているこの子は、1日14時間以上働くのです。そして疲れていても毎日子どもを抱くのです。ミルクを飲ませてオムツを換えるのです。一体、彼のどこが不良なのでしょう?むしろ彼のような人間を育むのが教育ではないのでしょうか? 彼をみているとそう主張したくなってしまいます。

コンビニの深夜バイト(これも17歳の少年がしているというのは“違法”なのでしょうが、彼は“食べるために”そのようなルールは端から無視しています。「誰も傷つけないでしょう」と彼は言います。)の現場で、彼は「福祉」の視点にも気がつきはじめました。コンビニにやってきたホームレスのお客と言葉を交わしたことで彼の認識が変わったようです。

彼は言うのです、「NPOの作り方を教えてください。作業所の作り方を教えてください。あのホームレスのおじさん達と話しているとみんな立派なんだということがわかるんです。あの人たちが働けないと世の中はものすごく勿体ないと思うのです。あの人達を放っておけないのです」と。

以来彼は、日々売れ残ったおにぎりやパンを安く買い、広島市中心部繁華街のアーケード下で寝ているホームレスの人々に配っています。

この1年間、彼に対する支援は、彼をある意味彼を特別扱いすることでした。彼にだけは“大人の仲間”として対応したのでした。

ひとつは、深夜でも彼からの電話には出て、そしてたまには一緒に食事に行って、他の子ども達が居ない場所でゆっくりといろいろな話をすることでした。

そしてもうひとつは、“さなる高み”を見せるための研修機会を提供することでした。「いつかは飲食店を持って成功したい。福祉の事業もしたい。」と夢をみる彼に、日本一の障害者作業所レストラン(高級フレンチレストラン)、「カフェレストランほのぼの屋(舞鶴)」への研修視察に、「最先端の運営を行う特養の施設長から学ぶ研修会(大阪)」に、そして「彼が働きはじめた広島お好み焼き屋とは別格の“旨味”にこだわる大阪お好み焼き屋」の現場にも連れていきました。



## 【事例2人目:Mちゃん 18歳】

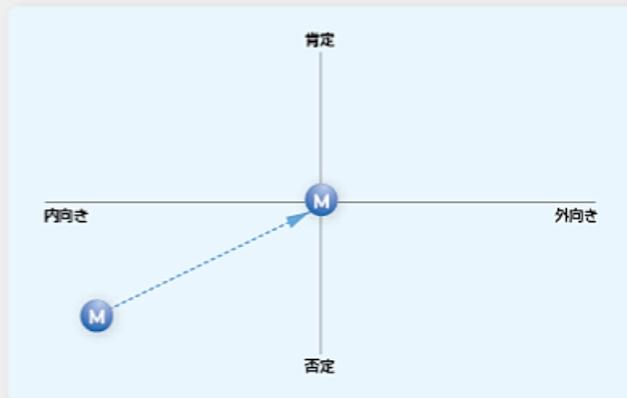
1年前のMちゃんは次のような状況でした。

- ・ Mちゃんは通信制高校の2年生で、父親は県庁職員、母親は専業主婦です。前述のK君の家とは違い、一見「一般的」な家庭環境にあるのかと思われます。
  - ・ Mちゃんは男の子からもてる容姿をしています。中学校時代不登校だったこともあってか、いまも引っ込み思案な印象を与える少女です。
  - ・ 不登校になった原因は母親と父親の関係にあります。小学生の頃から母親と父親の男女関係が上手くいかなくなり、母親は夜に「男あさり」に出かけるようになりました。父親はそんな母親に文句も言えず、見て見ぬ振りをしながら、ラブホテルから朝帰りした母親がつくったお弁当を持って県庁に出勤する毎日です。家の中には母親がラブホテルから持ち帰ったマッチやライターが転がっています。
  - ・ 母親の男遊びは何年も続いているが、父親はそんな母親に正面から対峙できず、地域の子供会の世話役をしたりと「外」に発散のはけ口を求めるようになりました。
  - ・ Mちゃんには8歳上のお姉さんが居ますが、そんな母親が嫌で家を出し、いまでは遠く離れた地で幸せな家庭生活を送っています。また成人となったお兄さんもありますが、こちらはいわゆるニートで、親の腰をかじって毎日自宅でゴロゴロしています。
  - ・ Mちゃんはこんな家が好きではなく、早くお姉さんのように家を出て幸せになりたいという願望を持っています。しかしMちゃんの心と目が「外を向く」と、母親がそれを阻止しようとリストカットしてMちゃんの手を自分に戻そうとします。母親の左腕には無数の傷跡があります。
  - ・ 母親に縛られることで、Mちゃんの精神状態も悪くなるようです。お姉さんに憧れて外を向いていた彼女が、いつのまにか暗く内向きになってしまいがちです。知らず知らずのうちに母親に心をロックされ、コントロールされるようになってきているようです。
- ※ 「安定志向」の世の中で、Mちゃんは一見世間も望ましいと考える環境にあるかに思われがちですが、実は彼女は「地獄」にいます。そこから抜け出したいと思っても、すぐに母親が手首を切って「こっちを向いて」と引き止めるのです。

Mちゃんはまだ「地獄の家」から抜け出せません。外を向きたいという希望はあってもどうしたら外に出られるのか、そのあてが無いのです。

彼女は内向きで、「自己否定」に陥りがちとなってしまいます。

■Mちゃんの座標図



## 【今のMちゃん(そしてこれまでのMちゃんへの支援)】

Mちゃんは中学校にはほとんど登校していません。高校も通信制でしたから月に何日かの登校でした。彼女に対する支援は、「A:無条件での寄添い」⇒「B:プールでの水泳教室(龍馬塾の中で他の子ども達や大人達との関わりを持たせて“対人”に慣れさせる)⇒「C:海水浴へ連れ出す(さらに広いステージでの出会いを経験させたり、アルバイトしてお金を得られるように促す)⇒「D:海で溺れないよう直ぐ隣で泳ぐ(めまぐるしい出会いやアルバイト生活の中でストレスに負けないように体力が育つまでは“親代わり”として少し離れた位置から見守る)」というステップで行ってきました。

そして彼女は見事にその階段を力強く登って行ってくれました。

「A:無条件での寄添い」はNPO法人よもぎのアトリエの代表が担ってきました。中学時代と高校1年生までの4年間、代表が運転する配食サービス事業の配達車両の助手席がMちゃんの指定席であり学校でした。

そして高2になった春、代表に連れられてやってきた龍馬塾がMちゃんにとっては「初めてのプール」でした。そのプールで彼女は泳ぐことも覚え、溺れそうになることも覚えていきました。同じ年代の子ども達と会話をするようになったのは、ある男の子から強烈なラブアタックを受けるようになってからです。「Mちゃん、可愛いよ」を連発する彼との恋愛は失恋に終わり成就しませんでした。彼のやりとりを経験することでMちゃんのコミュニケーション力や対人ストレス耐性が急速によみがえっていきました。Mちゃんは元々幼少時には快活な子だったのです。

男の子との最初の機会は失恋に終わりましたが、その後も彼女には他の男の子からのアプローチがあり、彼女は少しずつ自信を回復していきました。自分から憧れ恋するという経験もできました。残念ながらこれらの恋愛はすべて成就していませんが、彼女は甘酸っぱい失恋と引き換えに「強さ、耐性」を獲得していったようです。そしてこの段階では、Mちゃんの支援者はNPOの代表(60歳女性)ではなく、龍馬塾のお父さん世代の講師やお兄さん世代の講師に移行していました。

遅くなってきたMちゃんを「お父さん世代」の講師は「海」に連れ出しました。「お父さん」講師は、先に海で泳いでいる子(龍馬塾の中では早くから継続的にアルバイトができていた同い年の女の子Cちゃん)に、同じアルバイトができるようにMちゃんを連れて行って欲しいと頼んだのです。

清水の舞台から飛び降りるほどの気持ちでMちゃんは面接に出かけ、そしてアルバイトをはじめました。今、広島市の中心街にあるお店で、Mちゃんはまるで看板娘のような人気です。「仕事、キツイよ」とこぼしながらも、「自分で自由になるお金(自分の意思を行動に移すためのエネルギー)」を手にはじめて彼女の自信が少し感じられるようになってきました。「水にも入れなかった」Mちゃんはもう過去のことです。

でもMちゃんは数年間引きこもっていたので、まだまだ心の体力が十分に回復しているわけではありません。彼女が折れないよう曇まないよう、傍で泳ぎながら見守る「母親代わり」の存在が居てくれるのです。静岡から何度も駆けつけてくれるDさんです。

龍馬塾と交流をはじめた静岡の「未来子育てネット中田てくてく」の代表です。この「静岡のお母さん」の素晴らしいところは、「自分はお母さんではなくお姉さんだ」と思いこんでくれているところです。なのでMちゃんの恋愛相談に対しても「上から目線」ではなく「水平目線」で向き合うことができるのです。

Mちゃんという一人の女の子に何人もの大人達が支援したり見守ったりしてきました。もう彼女は引きこもりませんし、リストカットもしません。「バイトで稼いで早く静岡にいきたい。早く大人になってDさんと呑みにいきたいんだ」と頑張っています。

## 【事例3人目:YA君 15歳】(32歳 TG講師の記録メモより転載)

最初はYAを勉強会(学習支援)に誘った。木曜日に数学を勉強し始めた。彼が数学を選んだ理由は、「好きな教科だった」から。

出会った時(中3の春)にはすでに彼は学校を欠席がちで、半不登校状態になっていた。ただし、2年生まではほぼ毎日出席していたということで、今ならまだ間に合うという思いもあった。親に内緒で窃チャリに乗り、それで学校にも通っていた。

表現は素直でないが、心根は正直でピュア。ただし、プライドは高く、傷つきやすくもろい。彼には殺し文句として、重要な局面で「安い男になるな」と言ってきた。

ある日、彼が万引きで捕まった。現行犯で捕まり、警察署で事情聴取。どうやら、YAが覚えていたのは僕の携帯番号のみだったらしく、警察から僕に連絡がきた。YAの母親の連絡先をしっていたので警察に教えた。が、仕事後僕も警察署へ迎えに行った。

20時過ぎ頃、母親も警察署に到着し、YAのいる部屋へ。その後、21時前後に彼と母親と一緒に出てきた。彼は笑顔で「よう」と言ってきた。彼なりの必死の抵抗、あがきのように見えた。署を出て、母親と話をした。これから万引きしたスーパーに二人で謝罪をしに行くということだった。母親は、龍馬塾や勉強会のことは良い話(噂)を聞かないから(地元の自治会や社協が龍馬塾に対する妬みから根も葉もない噂を地域にバラまいていたことが原因)本音は行ってほしくない。龍馬塾に行くようになって夜帰らなくなり、今回のように犯罪までおかしってしまったといわれていた。僕は謝るしかなかった。それにしても、YAの母親への態度はひどいものだった。まさに思春期の反抗そのもので、子どもっぽい態度だった。母親の印象は、基町の中では「まともな母親」だった。母親に反抗的な態度を示すあおいを軽く諷めて、自分は帰宅しようと思ったが、念のため、スーパーに先回りして、本当にあおいが謝罪に来るか密かに待っていた。結果、彼は母親とちゃんと謝罪に来ていた。

翌日龍馬塾で、「少しハクがついた」かのように話をしようとしたYAに、「安い男になるなっていったら。」と言った。すると、彼は「別に安くないよ。捕まったことは。」と言っていたので「いくらで捕まったんだ? たかだか1000円程度だろ。」と言うと、だまっていた。彼のプライドを必要以上に傷つけるつもりもなかったもので、すぐにその場からいったん立ち去った。

どういふ男が「安い」のか、教える必要があるが、彼に面と向かって安い男というのはこういう男だと説明しようとしても聞く耳を持たないことは目に見えている。プライドはやたらと高いので、はなから説教と決めつけてシャットアウトする。こうした機会をもらえて、短く厳しく言い放つのがベスト。彼は考える頭をまだ持っているので、この方法が通用すると考えた。

YAと一緒に自転車を買に行った。彼は、自分のために世話をしてくれる行為に対して、素直にうれしそうにする。もちろん本人はそんな素振りを見せていないつもりだろうが、明らかに感じる。感謝しているかどうかは微妙だが、喜びと、強まる親近感を感じる。このことが、彼への支援が無駄になっていない確信を持たせる。とにかく、彼は能力を持っており、それを正しく行使する資質も備えていると感じている。その資質を活かすための目標が必要だが、彼にはそれが無い。「めんどくさい」が口癖で、それで考えることから逃げています。しかも「めんどくさい」ということがまるでかっこいいかのように使っているようにも見えた。そうした行動、思考パターンから脱却させたいと感じた。

そのためにまず必要なのは、彼が心から願う目標が必要。与えられたものではない何か。タイミング的には高校受験で、彼は学校の先生から効率なら国際高校、私立なら山陽高校を勧められていた。彼は先生から「お前は今からでもまじめに勉強すれば受かる」と言われ、まんざらでもなさそうだった。その影響もあり勉強しているが、やはり、厳しいと言わざるを得ない。彼になんとか「YAが興味ある世界はあるのか?」と聞いてみた。「興味あるのは声優」と答えた。聞くと、声優マニアといえるほど、かなり声優に詳しいようだった。普通に生活しては、声優ははるか遠い世界。学校もそんな道は教えてくれない。「声優になればいい」というと、彼は「なれるわけない」と否定。しかし、その道は実際に選べる道だと教え、一緒に調べることにした。

彼は「かわいい」と言われることに喜びを感じるところもある。若干女の子のような印象を受けることもある。こころ辺りがTBさん(50代のお父さん世代講師)が言う「ヒモになれる素質」の部分なのかと感じている。悪い言葉でいうと、ナヨナヨした感じ。こどもっぽく、甘えん坊なところがある。末っ子ゆえか。母親の愛情の独占を欲するが、適わなかったがゆえか。それは分からない。

声優への道と一緒に調べた。二つの学校があった。両方の学校のオープンキャンパスに行ったが、その様子からも本人はやる気だった。授業体験でも積極的に発表する姿は非常に印象的だった。龍馬塾でも、次第に表情が明るくなり、積極的に発言をするようになった。以前はいつもMちゃんのそばにいて、静かにしている感じだったが、みんなの輪の中で大きな声で発言するようになった。

YAを伸ばすには、目標を持たせること、期待をかけること、彼を信頼しているという姿勢を見せることで十分だった。声優という目標を定め、学校を決めたときに一つ、大きな壁が立ちはだかった。それは母親と学校の説得だった。普通の進路を求める両者に、YAは自ら説得することを避けていた。まさにそこが彼の弱さだった。自分のやりたいことを妥協するのは「安い男だ」と言い、あえて突き放した。学校に行き、資料をもらい、受験申込書も書いたが、親のサインがもらえない。自分から説得する勇気がない。締め切りは迫っている。でも、あえてぎりぎりまで待つことを決めた。本人が切り出すしかないと感じた。反対する親に反抗して家を飛び出したこともあった。勉強会の度にハッパをかけていると、最後は投げやりにもういいわ。定時制に行くわ」とさえて言っていた。そうならばそれまでのことと。彼のやる気はそこまでだったということ。

結果、学校側を巻き込んでなんとか本人も母親にやる気を見せたらしく、母親も最後は認めたようだ。

進路が決まり、少し明るくなった。また、高校に受かったら「たばこをやめる」「バイトをする」と自ら目標を宣言した。彼が変わってきた。3ヶ月以上の禁煙を達成した彼に先述のTBさんから「禁煙チャレンジ達成と入学おめでとう!」と卒業・入学祝いももらっていた。

最近は人生に前向きになっている様子を感じられる。やりたいことがたくさんあり、それに向けて実際に動こうとしている。希望に満ちている。

